



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

2021
November
No. 192

士会だより



特集: TOKYO2020 オリンピック・パラリンピック大会 活動報告

***** Index *****

・ 巻頭言	2
・ 第39回 日本理学療法士協会協会賞受賞	3
・ 特集: TOKYO2020 オリンピック・パラリンピック大会 活動報告	4-21
・ 各部だより	22-26
・ INFORMATION	27-28
・ 会長行動録	29-31
・ 兵庫県で活躍する理学療法士 ～数珠繋ぎ～	32



コロナ禍から学ぶ変革

一般社団法人兵庫県理学療法士会
副会長 木澤 清行(株式会社Steps)

2019年12月に中国武漢でCOVID-19が確認されてから約2年が過ぎ、最初の報道からは、まさかこの2年間のような生活を強いられるとは、全く想像しておりませんでした。この2年間、コロナ禍で常に最前線で治療していただいた医師、看護師、理学療法士の皆様、また後方支援していただいた回復期病院の皆様、在宅医療現場で感染が判定できない中で個人防護具を盾にリハビリテーションを継続された皆様など全ての医療従事者に心より御礼申し上げます。

一般社団法人兵庫県理学療法士会においても『コロナ禍でも学びを止めない!』を目標に従来の県士会活動とは異なった形で事業継続を試みております。対面研修は全てが中止となる中、各部がオンライン研修会の方法を習得していただいたおかげで、コロナ以前の研修会より遥かに参加会員が多くなっております。この2年間で理学療法士の研修方法が大きく変化した今、COVID-19が終息した後も子育て支援の観点や学び方の多様性としてオンライン・オンデマンド研修の継続は、必要だと感じております。今後は、公益事業による県民の皆様とのふれあいや対面実技研修などどのような方法で再開できるかを感染対策委員会で前向きに準備していきたいと考えております。

また、世間はコロナ禍で急速にデジタルトランスフォーメーションが進んでおります。県士会でも新型コロナウイルスが蔓延する以前より県士会業務のデジタル化を推奨しておりましたが、この度コロナ禍の後押しがあり徐々に動き出しております。しかしながら多くの士会業務を多面的に進める必要があり、皆様のご理解なくして変革できない側面もあります。是非ご協力よろしくお願い致します。それとは別に各施設の管理者の限られた時間を有効に利用するためにも管理者のデジタルスキルの向上と拡大を目指したいと思っております。その先駆けとして県士会業務に携わる会員の皆様と情報共有や意見交換を重ねて進めていきたいと考えております。

最後になりますが2022年1月16日に第61回近畿理学療法学会を完全WEBにより開催させていただきます。兵庫県理学療法士会が担当する今回の学会は、WEB上に学会のプラットフォームが用意され、従来のURLから入室する学会とは違い参加者同士のコミュニケーションの場も提供できるよう考えられています。当日でも参加申し込みが可能、見逃し視聴が可能など、参加者の視点で大きくリニューアルしております。是非、一度大会ホームページへお立ち寄りください。本誌が皆様のお手元に届く頃にCOVID-19がより終息に向かっておりますことを祈念しております。

第39回 日本理学療法士協会協会賞受賞

おめでとうございます

公益社団法人 日本理学療法士協会より
協会賞を2名の方が表彰されました。今回授与された方々です。



平山 昌男 氏



西川 仁史 氏

平山先生、西川先生にひと言いただきました。

この度、日本理学療法士協会より第39回協会賞という光栄な賞を頂きましたこと心より嬉しく思っています。この受賞は、これまでに私を指導し育てて頂いた先輩諸氏や支えてくださった皆様のお陰であり、数多くの方にお世話になりましたこと心から感謝しております。兵庫県理学療法士会及び日本理学療法士協会の活動に携わる中で、とても多くのことを教わることができ、貴重な経験をさせていただきました。また、普段の業務では出会うことのできない数多くの先生方とも知り合うことができ、活動する中でとても多くの刺激を受けました。これらは私の中での理学療法士としての基盤となるものであり、掛け替えのないものとなりました。

今回の受賞に際して、心から感謝するとともに微力ではありますが、これからも私にできることを継続し、両会の発展に向けて少しでも寄与できるように努めたいと思います。

平山 昌男(西播磨病院)

この度、(一社)日本理学療法士協会協会賞をいただき誠に光栄に存じます。1990年、会員6年目で西播磨ブロック(当時、6ブロック)の運営委員に参加してから、本年6月に県士会理事を退任するまでに昭和、平成、令和へと変遷し31年が過ぎておりました。バブル崩壊、阪神淡路大震災や東北大震災などの自然災害、そして今直面するcovid-19。理学療法士は、その時代・時勢に直面しながらも社会に貢献していると認識しています。しかし、半田前協会長の談にあるように、「理学療法、理学療法士」の認知度は足踏み状態と感じます。それと、リーダーとして女性理学療法士のさらなる活躍を期待したい。県士会理事は16名のうち女性理事は2名、部長等の役職でも2名です。女性会員数40%に見合う適材適所の登用が必要と考えます。また、会員の平均年齢は34歳です。顔の見える距離感で、是非、県士会活動に参加していただきたい。視野を変化させるよい機会となるでしょう。

最後に、これまでご指導、ご協力いただいた皆様に深くお礼申し上げますとともに、益々の飛躍をご祈念いたします。

西川 仁史(甲南女子大学)



TOKYO 2020
オリンピック・パラリンピック大会

兵庫県士会員 活動報告

東京2020大会 閉幕

2013年9月7日、ブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会（IOC）総会にて2020年夏季五輪の開催都市が東京に決定しました。

それに伴い、理学療法士がこの国際大会に関わることで得られる経験や知識を、「将来的な理学療法士の活躍につなげる」、さらには「日本の理学療法の発展につながるレガシー」とするために、本大会に関わる理学療法士の準備が進められてきました。

しかし、2020年1月頃から日本国内で新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が拡大し、2020年3月24日、史上初めてオリンピック・パラリンピックの開催延期が決まりました。その後は感染拡大に伴い日常生活が一変し、我々理学療法士の関わる医療現場、介護現場でも様々な難しい対応が迫られる日々がやってきました。

本大会の開催自体が不確定となり、また大会の開催自体に賛否の声がある中、開催された場合に選手・関係者へ最高かつ安全・安心な医療サービス提供をできるよう、関係者は粛々と準備を進めてきました。

開催直前まで不確定な部分が多く、また緊急事態宣言下で現地での事前確認ができず、具体的な業務の詳細は直前まで確認できないという状況で、参加するスタッフも不安を感じながら大会を迎えることとなりました。

それでも大会開催中、理学療法チームはコアスタッフの方を中心に素晴らしく統率が取れ、それでいて各自の気配りが行き届き、清潔を保ち、そして世界に通用する理学療法スキルが発揮され、内外から多くの賞賛の言葉をいただいたとのことです。

What our
LEGACY?

兵庫県理学療法士会員からは24名の方が大会に参加しました。理学療法士の活動場所は選手村内診療所（ポリクリニック）、各競技会場、各競技練習会場と様々で、配属された活動場所によって求められる対応（スキル）が違います。各々が医療者・理学療法士として活動場所で必要とされる内容を理解し、活動してまいりました。

この県士会だよりで大会に参加された県士会員の活動をご報告すると共に、それぞれの経験がこれからの県士会活動の糧、県士会の発展につながるレガシーになることを願います。

また、大会開催前及び開催中の感染状況の悪化から、個人もしくは所属先の判断で大会への参加を辞退された方も多くおられたことも追記させていただきます。ご自身だけでなく、患者様や対象者様、ご家族、職場の同僚のことを想い、悩んで決断されたことと思いますので、そのことも含めて県士会の大切な経験であり、レガシーだと思っております。

OLYMPIC

選手村（晴海）



<活動報告>

晴海選手村では、午前シフトが7時から16時、午後シフトが14時から23時の2部制となりました。おおよそ15名～17名の理学療法士がシフトごとに出勤しており、マネジメントを行うリーダーのPTと受付業務を行うPT、選手を担当するPTに分けられ、選手を担当する際は2人1組のペア、あるいは1人で行っていました。理学療法ルームには、超音波治療器、電気治療器、温熱治療器、冷却器具などのさまざまな物理療法機器や豊富なテーピング類、アイスバス、通訳機器などが配備されており、世界各国の選手のさまざまな訴えに対応できるように準備されていました。

初日は、施設の見学や他の先生の見学がメインでしたが、2日目以降は、毎日選手や大会関係者などを数人担当することになりました。空いている時間には、高名な先生の治療を直接見学したり、質問をさせて頂いたり、また普段会う機会のない全国のPTと情報交換をする機会もたくさんありました。

<現場活動の楽しさ、難しさ>

・楽しさ

実際選手と対峙して行うことは日頃のスポーツ選手と関わることと何ら変わりはありませんが、特殊な環境で日本全国から集まった人たちと選手のためにという一つの目的に向かって協働することに大変さと楽しさを感じました。また、ポリクリニックや大会を運営するという大変さも強く感じました。

大会に生命をかけて挑む世界レベルの選手に対し自身の治療技術がどこまで通用するか確認できたり、全国のPTとご一緒できたことでたくさん新しい発見ができたり、選手やPT・オリピックに関わるたくさんのスタッフから刺激をいただけたりに楽しさを感じました。

自国ではしっかりと身体を診てもらえていなかった選手もいて、身体の状態などを説明すると、とても納得して頂け「朝からずっと調子が悪かったけれどとても楽になった」と言ってもらえたときにはPTとしてとても嬉しかったです。

・難しさ

当日あるいは翌日に大事な試合を控えている選手も数多く来院され、即時性や持続性を即座に求められ、結果がすべての世界で活動することに難しさを感じました。

身体状態の評価や痛みについての質問はしっかりと聴取する事が多いですが、手術歴などは聞き忘れてしまう可能性があります。担当したケースでは、たまたま服を脱いでの治療であったため腰に手術の跡を見つけ、話を聞くことが

出来ました。もし、腰の手術の事を知らないままに禁忌肢位や物理療法を行ってしまっていたならと考えると恐ろしいことだなと感じました。

オリンピックでは、診察無しに理学療法を受けられる（ダイレクトアクセス）ため、事前に理学療法ルームでの少しの診察はあるにしても、手術をしている可能性などを考慮して身体に触れる前にきちんと問診をする必要があるなど感じました。



〈これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ〉

普段、病院や施設で治療を行っている先生方の中には、スポーツの現場で活動する事に少しハードルを感じてしまう先生もいらっしゃると思いますが、実際の現場でアスリートの治療をする事は、普段私達が臨床で行っている事と同じで、そこに各スポーツの視点がプラスされていくという感じだと思っています。

これからスポーツ現場活動をする方は、日常の診療から常に効果や結果を求め、基礎からしっかり理論立てた治療を行っていただければと思います。加えて、国際大会でのサポートを行う場合は、選手に納得していただくだけの説明能力は英語でも重要だと思っています。

兵庫県のPT協会にはスポーツ活動支援部という部があり、初めてスポーツの現場に出る先生方へのサポート体制が整っており、現場に出る前にはスポーツや傷害特性、現場での対応についての勉強会が開催されています。

また実際の現場活動でも普段からスポーツ活動している先生に気軽に質問できる状態なので、これからスポーツに関わりたいと思う先生方にはぜひ参加して頂きたいなと思いました。

選手村（大磯）



〈活動報告〉

セーリング競技が開催される大磯選手村のポリクリニックで活動しました。大会の運営ならびに進行における注意点などの説明がある事前研修会を、本来であればオフラインで講習を受ける予定でしたが、コロナ禍の影響によりすべてオンラインでの受講となりました。よって、配属先の現場の様子などは映像のみでしか確認することができず、事前に現場の雰囲気を実際に体験できていなかったことは正直不安でした。しかし参加時は、コアスタッフの先生やすでに参加されている先生方から暖かく迎え入れていただいたおかげで、募っていた不安はすぐに解消することができました。

大磯選手村の勤務時間は、①6～12時(以下、勤務①)、②17～23時(以下、勤務②)、の2パターンでした。つまり、競技時間（お昼～夕方）の前後の時間帯でした。ポリクリニックを利用する選手の数は圧倒的に勤務②が多く、多忙でした。競技で疲労した身体を回復させる目的で利用する選手が多い印象でした。一方で勤務①は、勤務②と比較すると利用する選手の量は少なく程良い忙しさで進んでいきました。利用目的は競技前のコンディショニング調整でした。

理学療法実施までの流れは、基本的には医療機関で理学療法開始となるまでの流れと同様でした。治療を実施する際の感染対策として、セラピストの手袋、ゴーグル、マスク、ディスボガウンの着用は必須であり、ベッドや枕ならびに物理療法機器など設備に関しては、使用の度にアルコール除菌シートで消毒を行いました。

PCR検査は唾液を用いる形式であり、大磯選手村に在籍している選手ならびに関係者の全員が毎日提出を義務付けられました。幸いにも私たちは体調を崩すことなく職務を全うすることができました。

依頼件数に関して、大半を占めていたのが

「疲労の回復」であり、それに基づく選手からの要望として、スポーツマッサージが多くありました。スポーツマッサージはボディオイルを併用して軽擦法や指圧などを組み合わせて行いました。私たち理学療法士(以下、PT)が普段の臨床で頻度多く用いる揉捻法によるマッサージとは異なり、指圧の程度や自分のポジショニングなどが実施当初は定まらず若干苦戦しました。しかし、隙間時間に参加されていた鍼灸師の方に実施上のポイントをご指導いただけたおかげで、勤務後半では選手からマッサージに対する高評価が増えました。

物理療法に関しては、冷却器具の使用頻度が最も多かったです。この機器は、目的とする部位に対し冷却と圧迫同時に実施することが可能であり、循環促進及び疲労回復の効果が期待できます。また、電気療法や超音波も使用する機会がありましたが、冷却器具と比較すると件数は少ないものでした。

<現場活動の楽しさ、難しさ>

・楽しさ

上記の通り、疲労によるコンディショニングのためのマッサージを希望する選手が多数を占めました。そのような選手達の身体には多くの機能的な問題点が潜在していました。選手に対し、その問題点と問診によって得た情報から推察される因果関係を説明したところ、積極的な反応を示してくれた選手も数多くいました。その選手たちに対処方法(セルフケアおよびエクササイズ)を伝えると、とても興味をもって私たちの話に耳を傾け、そして取り組んでくれました。それ以降毎日クリニックに通い、セラピストを指名してくれるようになった選手もあり、選手との関係性が深まっていったのが分かりました。このように、PTとしての専門性を発揮したことで選手との関係性を深められたことは、PTとしての存在意義を感じるとも

に、日本のPTの能力が世界に通用するということが証明できた瞬間でした。

・難しさについて

各国のトップアスリートが参加するオリンピックには国として様々な背景を持った選手がおり、何気ない日常会話において注意を必要とする場面がありました。具体的には、ロシアの選手は今回のオリンピックでは国として参加する事ができずメディカルスタッフを自国から帯同させることができなかった、という内容です。その際の返答はとても難しく未だに最適解を探しています。もしかしたら、余計な事を言わず寄り添うだけでよかったのかもしれませんが。各々の選手たちが自国の国際的な事情を抱えており、それは私たちの想像の範疇を超える内容もあります。そのような選手の背景に沿うことの難しさを改めて痛感しました。



<これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ>

・コミュニケーション能力

英語が話せない選手に対しては翻訳ツールも活用しましたが、選手とのコミュニケーションは原則全て英語でした。世界的な共通言語である英語はこのような国際大会に参加する上では必須になると思います。そして、英語が話せる、というだけで国際大会に参加できる可能性が広がると思います。

・スポーツマッサージ

競技にもよりますが、このような大会期間中における選手のコンディショニングにおいて、スポーツマッサージの需要が想像以上に多いことが分かりました。今後、このような機会に備えてPTによるマッサージ技術の向上も必要になってくるのかもしれませんが。

・PT能力の向上

痛みの除去を訴える選手に対しては、やはり私たちが普段臨床で取り組んでいることが活きました。会話が日本語でないというだけで、特別に新しいことをしたわけではありません。よって、普段の臨床から目の前の対象の問題を解決できるよう、日々自己研鑽に取り組むことが改めて大切である感じました。

選手村（修善寺）



＜活動報告＞

自転車競技が開催されていた伊豆に開設された選手村修善寺分村内ポリクリニックで活動しました。修善寺分村はコテージなどがあるリゾート宿泊施設をそのまま選手村として活用しており、選手は各国毎にコテージで宿泊するようになっていました。

ポリクリニックは晴海の選手村本村と違い規模が小さく、理学療法士2名、鍼灸・マッサージ師2名の4名体制で開院時間内で医療サービスを提供しておりました。

自転車競技は主にヨーロッパで盛んであり、多くの参加国がドクターや理学療法士を帯同していたため、選手への対応は少なく、チームスタッフのコンディショニングにも対応しておりました（ポリクリニックは選手だけでなく、関係者も利用可能です）。

＜現場活動の楽しさ、難しさ＞

クリニックの規模が小さいため、ドクター、看護師、PT、鍼灸・マッサージ師、事務スタッフ、ボランティアスタッフとの連携、コミュニケーションは十分にとれる状況でした。そのため、様々な利用者からの申し出（例えば、帰

路の長時間移動の際に、腰痛悪化が懸念されるケース）に対して、処方薬、キネシオテープの貼付、ADL指導などを対象者の状況を考慮しながら時間をかけて行えたことは、小規模のポリクリニックならではの関わりであったかなと思いますし、利用者に満足いただけたことは喜びでした。

また、PTと鍼灸・マッサージ師と一緒に対象者を診療し、それぞれの評価や意見から一緒に治療戦略を考え、変化を共有できた時間はとても貴重で楽しかったです。鍼って奥が深い…、マッサージって奥が深い…、そして理学療法って奥が深い…と実感しました。

難しいと感じたことは、即席の医療チームでいかにして連携していくかということです。フィジオルームの統括をPTのコアスタッフが担っており、コアスタッフPTには利用者の要望とドクターの方針からどのような対応をするか？どのスタッフに対応してもらうかを決めていく作業が必要でした。PT、鍼灸・マッサージ師それぞれのバックグラウンドや得意とする治療方法などを考慮しながらそれぞれの方の能力を最大限に発揮してもらえよう工夫することは難しくもあり、楽しい部分でした。



＜これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ＞

今回参加されていた多くの方が実感したところかと思いますが、国際大会では語学スキルは詳細なことを伝えるためにも大切だと思いました。

ただ、言葉がわかっていても内容がわからなければ、コミュニケーションは成立しませんので、普段からスポーツ分野に興味をもち、スポーツ

理学療法に関する情報を広く把握する習慣、アンテナをはっておくことが大切であると思います。例えば、国際的にどのような治療やケアがあるのか？主流なのか？流行っているのか？その機序や効果は？などです。

そのような意味でもスポーツ現場活動に参加したいと思っておられる方は、スポーツ理学療法に関心を持って、多角的にスポーツに関すること（理学療法だけでなく）を学んでいただく良いかと思います。

また、これまでに人類が経験したことがない状況でのスポーツイベントの開催によって、スポーツの意義や意味をそれぞれが再考することになったと思います。これからは、競技者も、我々サポートする側の者も、それぞれの価値観を大切にしながらスポーツ活動ができる、そんな社会を構築していく一担い手に理学療法士がなっていきましょう。

柔道競技会場 (日本武道館)



<活動報告>

今回はPTとしてというよりも「救護補助」としての活動であったことが特筆すべき点であったと思います。柔道という競技上、迅速性と正確性が求められる命にかかわる事態に対して、医師の指示のもと頰椎カラー、ヘッドイモビライザー、スクープストレッチャー等を使用しての救急搬送や出血等のケガにマット（畳）サイドで対応する医師のサポート、畳上に付着した血液に対しての消毒、清拭などがメインでした。

一回の事態に対してしっかりと対応出来るように連日活動開始時に医療スタッフで何回も何

回もシミュレーションして搬送対応訓練を行い気持ちも含めて準備しました。

今まで数々の柔道競技のチームや大会に関わってきた経験での搬送や受傷に対しての対応が活かした活動だったと思います。



<現場活動の楽しさ、難しさ>

世界最高峰の大会での緊張感をヒシヒシと感じながら目の前で見て頂けた、一柔道ファンとしての嬉しさや楽しさ、また参加選手団の安全を第一に真摯に考える日本全国から集まった医療スタッフと共に活動でき、沢山の知識や刺激がもらえる楽しさはオリンピックならではの感じました。

また選手の安全が優先ではありますが、スポンサーやテレビをはじめとするメディアの影響でいつもの会場の環境や雰囲気はこんなにも変わるのかと商業的な目線と、それらに対しての対応の難しさを感じました。

<これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ>

基本日本語しか話せなくても大会のサポートに参加は出来ますが、外国語を話せるのは大きな武器になりますね。例えば普段の挨拶はもちろんですが、受傷して痛くて悶えているなかで、メディカルのビブスを着用しているとは言え、知らない人間たちに搬送のためにパッケージされて、どこへ搬送されるのか不安な状態の選手に対して、少しでも声をかけてあげられたら選手の安心感も違ってくると思うので、勉強していきたいと思っています。選手ファーストを考えるならば声掛けからであると思いますのでアドバイスとしては如何なる現場であっても「医は仁術なり」であると思います。

現場活動に初めて踏み出す一歩目は敷居が高く感じたり、不安も多いと思いますが、最初はみんな同じです。周りに一緒に活動してくれる人もいますからサポートしてもらいながら現場での経験値を上げていってください。ハマると思います(笑)。

柔道練習会場 (講道館)



<活動報告>

講道館では感染症予防のため各国が時間制にて練習を行っておりました。

理学療法士として業務は練習毎の除菌消毒などの環境調整であり、選手への個別への対応はありませんでしたが、各国独自の練習法などを目の前で見ることができ、各国の特徴を垣間見ることができました。また、オーストリアの日本人がコーチを務めており、オーストリアの練習法や実施に対して日本的な練習と欧州の練習の融合はとても新鮮かつ効果的な印象を受けました。また、各国選手がリラックスした雰囲気の中で交流したりする姿を見てオリンピックや国際大会の意義について感じる瞬間でもありました。

<現場活動の楽しさ、難しさ>

オリンピックという大きな国際大会で選手医療体制を見れた事は非常に有意義な時間となりました。今後、兵庫県で活動する際にはこの経験を活かして活動していきたいと考えています。

<これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ>

私もそうでしたが、最初から国際大会への参加は難しいと思います。まず、多くのスポーツ現場に参加することが重要であると思います。その中で経験値を増やすことで国際大会への道も開けてくると思います。

テニス競技会場 (有明テニスの森)



<活動報告>

公式練習開始前から競技前半まで活動しました。主な活動内容は、Physio room設営に始まり、救急時対応計画(EAP)作成の補助、アイスバス利用システム作成、Bookingシステム作成などPhysio room運営に関わる準備を行い、競技が開始されると、出場選手の要望に対してストレッチングやマッサージ、アイシングなどを行いました。

また、国際テニス連盟(ITF) Physioの指導のもと、緊急時の対応に関して、毎朝シュミレーション(固定方法、搬送方法)を行いました。

<現場活動の楽しさ、難しさ>

通常大会とは規模が違い関係者が多かったため、他部門との連携を取る事の難しさがありました。特に運営事務局との関わりが大きく、物品の補充や指示連絡系統の方法などに苦労しました。

ITF Physioと共に活動出来た事は大変貴重な経験となりました。ITF Physioは年間を通してATP(男子プロテニス協会)ツアーに帯同しているため、その話を聞いたり、実際の治療を見

学出来たり、普段では経験できない事となりました。

また、医師とのコミュニケーションも密に取れたため、チームとして競技をサポートする楽しさを実感できました。

〈これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ〉

まずは、スポーツ現場に足を運ぶこと。大会の規模に関わらず自ら積極的に行動することが大切だと思います。

もう一つは、そのスポーツを「知る」こと。自分が選手として行っていたかは関係なく、そのスポーツのルールや独自の表現方法などを知ることです。

私自身、テニス競技に関わり始めて十数年が経ちますが、全日本大会や国際大会のみならず現在もジュニアからシニアまで幅広いカテゴリーの試合に関わっております。

まずは、「つながり」を大切に、そこから地道に現場に足を運び、選手のみならずスタッフや関係者に「信頼」されることこそが、スポーツに関わる最も重要なものだと思っております。

卓球競技会場 (東京体育館)



〈活動報告〉

ウォームアップクールダウンエリア、選手用医務室、競技会場での救急対応を医師、看護師、理学療法士のチーム単位で行いました。最も印象深い点は競技会場での活動でした。今回大きなアクシデントはありませんでした

が、オリンピックの現場で特にメダルがかかった試合でアクシデントがあった場合に対して適切に対応できるかずっと緊張していた事が思い出深かったです。

また、体育館での選手の動線のほぼ全てに関わらせて頂いた中で試合に臨む前の準備や試合直後の様子なども間近に見られた事は良い経験になりました。

〈現場活動の楽しさ、難しさ〉

現場では試合直前まで関わった選手が試合で結果を出せたり、逆に出せなかったりするフィードバックを目の当たりにします。例えば自分が巻いたテーピングによってパフォーマンスが維持でき、選手から感謝の言葉を貰えると他では味わえない充実感を持つ事ができます。しかし逆に、試合前の選手にかける1つの言葉であったり、対応が選手の試合結果に直接関わると思うとミスができないと萎縮してしまいがちなので、経験が少ない間は判断が難しい事も多くあると思います。



〈これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ〉

私たちが日常の業務で行なっている病院やクリニックでのリハビリは、診断がされ応急処置が済み、ある程度安全な中でリハビリとしての機能訓練を求められていると思いますが、現場でのトレーナーとしての仕事は時には診断的な判断や、時には病院に行くべきかそうでないなどの判断、時には応急処置といった理学療法士の範囲を越えた事も判断しないといけない場面が多くあります。これは理学療法士の養成校で習ってこない事なので救急処置の資格やそれに

応じた普段の業務と異なる勉強や経験が必要です。

しかし、そういった経験を重ねていく中で、選手と一緒に勝負を分かち合える事は楽しい事だと思いました。

ホッケー競技会場 (大井ホッケー競技場)



<活動報告>

競技会場VCPTを務めさせて頂きました。開会前から他のPTスタッフとのシフト決めや打ち合わせを行いました。競技期間中は、試合中の担架隊(緊急時搬送スタッフ)として働いたり、アンパイアのコンディショニングを担当しました。

<現場活動の楽しさ、難しさ>

世界最高レベルの試合や選手が見れたことはとてもとても楽しかったし勉強になりました。残念ながら選手を直接みることは出来ませんでした。動きを見ながら筋力や関節の動きが如何なるのか想像を膨らませていました。運営側と現場の連携に難しさを感じました。プレ大会に参加出来ていなかったことが要因かもしれません。

<これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ>

緊急事態が発生した際には落ち着いて行動できなければいけないので、定期的な訓練が必要だと思いました。具体的には搬送、CPR、SCATなどの脳振盪の対応等。

それから英語能力が必要だと思います。選手

との会話に限らず、チームスタッフや大会関係者やセキュリティースタッフなど様々な場面でコミュニケーションが必要な場面が出てきます。コミュニケーションをとることによって色々なことが円滑に進んでくれると思います。

陸上競技会場 (オリンピック スタジアム)



<活動報告>

オリンピックスタジアム医務室にて活動しました。主な活動内容としては競技中の負傷者に対する応急処置対応(アイスタオル、アイシング、テーピング等)を行うことと、競技開始前に毎回シミュレーション(搬送方法確認、嘔吐対応、アイスバス・アイスタオルの対応等)を実施し、重症事案の発生予防に努めました。実際にはシミュレーション通りにいかないこともあり、騒然とした現場状態の時もありましたが、その度に反省と対策を検討し、より良い現場環境に改善していくことができました。

また、練習会場(代々木公園競技場)医務室でも活動し、来室者対応・会場内の安全確認・観察を行いました。メイン会場とは違い落ち着いた雰囲気、医務としては平穏な活動となりました。

<現場活動の楽しさ、難しさ>

大会のメイン会場であるオリンピックスタジアムで活動ができるということに大変興奮する一方で、実際の活動では初対面となる他スタッフの方々と共に活動したため、緊張や普段とは

異なる状況下に初めは連携がうまく図れないことに対して難しさを感じました。また、搬送されてきた海外アスリートへの応急処置対応をさせて頂きましたが、言語的なコミュニケーションの問題や迅速な処置および正確性において、自身の技術がまだまだ未熟であることを痛感した経験でもありました。ただ、オリンピックという大舞台を支えるスタッフとして関わったことは自分にとって大きな誇りであり、唯一無二の経験となりました。



〈これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ〉

まずは自分の好きなスポーツに興味を持つことで、初めはただ観戦するだけでも良いと思います。何度も現場に足を運ぶことで関係者に顔を覚えてもらい、徐々につながりを持つことができれば深く関わっていくことができるようになると思います。どのような資格が必要か、どのような能力が求められるかなど、積極的な情報収集や些細な事でも行動を起こすことでチャンスが巡ってくると思います。一度現場活動に参加することができれば、あとは経験を積み重ねていくことで自ずと楽しさややりがいを感じられるようになると思います。

国際大会のサポートを考えている方については、とにかく語学力は必須になると思います。コミュニケーションが図れないことには相手の要求が理解できませんし、こちらの想いも伝えられないので語学スキル（特に英語）を磨くことが重要かと思います。



選手村（晴海）



<活動報告>

閉会間近の大会期間、15時～23時の夜間シフトで活動しました。

<現場活動の楽しさ、難しさ>

閉会式の間近で試合は殆ど終わっており、選手のコンディショニングも「明日の試合に向けて」というよりは、「国に帰るまでに少しでも疲れを取りたい」というニーズが多かったように思います。

普段、臨床で自身が治療に物理療法を使用することは皆無ですが、選手村には物理療法機器も充実していて、また選手自身も物理療法治療を望む事も多く、他のスタッフに使用方法を教えてもらいながら物理療法を効果的に取り入れながら治療することができ、普段の臨床では経験できない体験をする事ができました。

物理療法治療の効果を実感する一方で、「自分の国にはない治療機器を毎日とりあえず全部したい」という選手もいて、評価をして物理療法をする事でかえって悪化する可能性がある事を説明しても選手の希望があれば行う必要がある場面もあり、その辺りは言葉の壁もあり難しなと感じました。

<これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ>

私はスポーツ現場での活動経験はありませんでしたが、東京オリンピック開催が決まってからPTとして関われるチャンスがあればと思い、5年前に臨床14年目にして初めてスポーツの現場に足を踏み入れました。

スポーツの現場でずっと活動してきた同年代の先生や自分よりずっと若いにも関わらず経験を積んでいる先生方の中に入り、最初は戸惑うことも多かったですが、沢山のご縁と沢山の経験を得る事が出来、当初目標にしていたオリパラへの参加も達成することができました。

いくつになっても挑戦することは可能だなと感じています。

若い先生でスポーツに興味を持っている先生はできるだけ早く、またこれまでスポーツに関わっていない先生であっても興味があれば何年目からでも一歩踏み出す事が可能だと思います。

スポーツに興味のある先生が一人でも多くスポーツ活動に参加して頂けると嬉しいなと思っています。

選手村（河口湖）



<活動報告>

今回の活動を通して選手、PT、オリンピックに関わる多くのスタッフからたくさんの刺激をいただきました。実際選手と対峙して行うことは日頃のスポーツ選手と関わることと何ら変わりはありませんが、特殊な環境で日本全国から集まった人たちと選手のためにという一つの目的に向かって協働することに変化と楽しさを感じました。また、パラサイクリング分宿においては晴海本村と比較して運営も含め柔軟な対応力が必要であり、運営の大変さを強く感じましたがDrやNs、運営スタッフ含めとてもアットホームな雰囲気の中で協働できたことがとてもいい経験になりました。

＜現場活動の楽しさ、難しさ＞

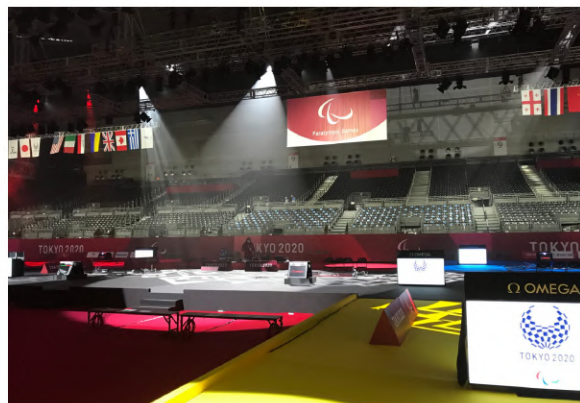
大会に生命をかけて挑む世界レベルの選手に対して自身の治療技術がどこまで通用するか確認できたり、全国のPTと一緒できたことでたくさんの新しい発見ができたり、選手やPT・オリンピックに関わるたくさんのスタッフから刺激をいただけたことに楽しさを感じました。加えて障がいを持っていてもそれをハンディとは感じず、前向きに直向きに競技に取り組む選手たちに携われたことは大きな経験となりました。また、即時性や持続性を即座に求められ「結果がすべての世界」で活動することに難しさを感じました。さらに、知的障害等の問題により英語が通じなかったり翻訳機を使用しても伝わらない選手との関りに難しさを感じました。

＜これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ＞

これからスポーツ現場活動をする方は、日常の診療から常に効果を求め、基礎からしっかり理論立てた治療を行っていただければと思います。長期的な改善だけではなく即時的な効果を求められることが多いため、治療技術に磨きをかける必要があると思います。加えて英語や多言語でも選手に納得していただくだけの説明能力は重要だと思います。



車いすフェンシング 競技会場（幕張メッセ）



＜活動報告＞

当競技での理学療法士配置は、試合会場及び練習会場医務室、競技会場でした。医務室では、試合前後のコンディショニングや急性外傷への対応を実施しました。競技会場では、フィールド内で待機し、試合中の怪我に対して競技ルールに則り、限られた時間内での評価・治療が求められる緊張感のある現場でした。大会中は、会場各所に医師が配置され、救急隊や後方支援病院の体制などハード面は大変充実していました。その中で、理学療法士としての役割を十分に理解し、急変時対応を含む様々な場面へ備えながらの活動となりました。

＜現場活動の楽しさ、難しさ＞

今回、メディカルチーム（医師、理学療法士、看護師）内に、当競技への帯同経験のあるメンバーは少数でした。そのため、職種間だけでなく他職種や大会組織委員会、競技役員の方々との連携を密にとりながら活動しました。また、国際大会ならではの言語の問題が各場面で散見されました。英語のみでは十分にコミュニケーションがとれない場合や、細かなニュアンスが汲み取りにくく対応に時間を要す場面がありました。ケースに応じて翻訳ツールや通訳スタッフのサポートを得ながら対応しました。

当競技は、切断や対麻痺、片麻痺等の選手が主で理学療法士が関わることの多い障がいです。車いすにて繰り広げられる剣さばきのテクニックやスピードは、臨床からは想像し難い迫力のある攻防でした。理学療法士として障がいをみる上でも学びの多い経験となり、障がいとスポーツの可能性を実感しました。今後、当競技を含む障がい者スポーツが国内において、さらに普及・発展していくためにも理学療法士としての関わり必要性を感じました。



〈これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ〉

私は、今回初めてのパラリンピックへの参加であり、当競技に関しても経験がありませんでした。しかしながら、士会活動にて車いすテニスやシッティングバレーに関わらせていただいたことにより、障がい者スポーツにおける活動のイメージを持って大会に臨むことができました。競技や大会によって求められる能力は異なる部分もありますが、現場でしか味わうことのできない雰囲気や経験が多く、現場経験を蓄積することで培われる判断力や対応力があります。これから、サポートを考えられている方にも競技を問わず、多くの現場に参加し、経験値を増やしていただきたいと思います。

シッティングバレーボール 競技会場（幕張メッセ）



〈活動報告〉

初めてパラリンピックという世界最高峰の国際大会のサポートスタッフの一員として携わる貴重な経験でした。大会開催にあたり、3年前から事前準備や運営の過程を経験出来たことは今後の大会の企画や運営を行うにあたりとても参考になりました。

競技会場における大会スタッフの活動として、一次救護が挙げられます。スクープ・ストレッチャーを用いた救急搬送トレーニングを毎日2回実施しました。大会運営者側との連携、医師・補助スタッフ間の役割分担の確認、病院搬送を担う救急隊との綿密な打ち合わせ、提携病院との連携など多岐に渡るフローチャートを形成して実施しました。

実際、脳震盪疑いの事例が発生した時も、冷静に評価して対応することができました。

改めてスポーツ現場でのサポートを行うにあたり、最悪の事態を想定したトレーニングを行うことの大切さを感じました。

〈現場活動の楽しさ、難しさ〉

全国から熱い志を持った、理学療法士や医師をはじめとする多くの他職種が交わる現場活動でのコミュニケーションは、とても楽しく貴重な時間でした。大会終了後も連絡を取り合い連携できていることは、財産になったと感じています。

世界レベルの競技を目の当たりにすることで、熱気熱量を感じ取れる生の現場に居合わせられたことは病院・医療現場とは違った心震える瞬間に立ち会えたと喜んでいきます。

PARALYMPIC

一方で救護において、瞬時の判断と正確な対応が求められる現場の難しさも痛感しました。多くの病院・施設に勤務する理学療法士にとって、日々の臨床は救急場面に立ち会う機会は多くありません。現場での限られた情報の中で、医師の下で素早く適切な医療行為が提供できているか、自答自問する日々でした。このことは、この先どんな現場においても常に持ち続けなければいけない考えだと思います。



〈これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ〉

各競技により、ルールの違いやケガの傾向も違います。様々なスポーツ活動の現場に参加してみると一番大切です。しかし、現場へ出るとなると、事前に熟練度を高めた上で参加しないといけないと考えている方もいるかもしれません。今は多くの現場で教育を含めた現場医療体制が整いつつあります。コミュニケーション能力を大切に、積極的に参加することをお勧めします。

余裕が出てくれば、現場や自身の立ち位置によって求められるものや、役割・権限が変わってきます。臨機応変に対応できるフットワークを磨くことも重要なことだと思います。

また国際大会において、世界の多くの公用語となっている英語は身に付けておくことに越したことはありません。しかし最近、音声通訳

機が発達していますので大きな心配はありません。まずは話し掛けるという積極性が一番だと思います。

一人でも多くの理学療法士が、スポーツ理学療法を通してより多くのアスリートやスポーツ愛好者に貢献できるよう共に努力していきましょう。

シッティングバレーボール練習会場



〈活動報告〉

今回、シッティングバレーボール競技のサポートにおいて、全スタッフが本会場及び練習会場どちらにも配置されており、練習会場では医師、理学療法士の2人体制で活動を行いました。内容としては一次救護や応急処置への対応ができるように医務室にて待機。世界最高峰の国際大会ということもあり基本的には、コートの上は仕切られておりクローズな状態で行われていたため練習を見ることはできませんでした。練習に向かう選手の様子や練習前後の捕食、また練習後のアイシングなどのケアを確認することができました。

活動期間中は大きな怪我や体調不良者への対応もなく無事に業務を終えることができました。

〈現場活動の楽しさ、難しさ〉

活動前は初対面の医師と二人体制ということに緊張感を覚えましたが、新しい出会いはとても刺激的で、普段の臨床や競技サポートについてなど多くの情報を得ることができました。とても貴重な時間を過ごすことができ、今後のモチベーションの増大につながりました。また、

医療スタッフだけでなく、多くのサポートスタッフの方が配置されて大会運営が行われていることを目の当たりにしました。サポートスタッフの方と一緒に練習会場に到着された選手のお出迎えやバスの見送りなどを行い、選手の皆さんとの交流を図ることが出来ました。

一方で、英語が苦手な思いから最低限の挨拶などはできましたが、世間話など気軽に外国人選手に話かけることができませんでした。

また、今回はコートがクローズの状態です。チーム関係者以外は立ち入りできず、練習中の状態が全くわからない状態であったため、この状態で外傷が起きた場合、言葉の通じない選手に対し一から問診し状況を判断し、処置にあたるにはコミュニケーションスキルの必要性を感じました。英語力の強化とメディカルスタッフだけでも交代で練習をみることができるとより質の高いサポートができるのではないかと感じました。



＜これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ＞

「まだ臨床の経験が浅いから」「スポーツ傷害の対応は難しいから」とスポーツ現場にでることを躊躇している声をよく耳にします。私は見学からでもいい、まずは現場に足を運ぶことが大事だと考えています。今は教育体制が整っている現場も多く、現場でしか学べない事があり、現場での出会いご縁で今後の活動範囲が大きく変わるようなきっかけになることがあります。是非、一歩踏み出してみてください。

車いすテニス競技会場 (有明テニスの森)



＜活動報告＞

全体の大会サポートは大会前練習期間8月22（日）～26日、大会期間8月27日（金）～9月4日（土）、計14日間であり、大会ドロー数は、男子シングルス56、女子シングルス32、男子ダブルス36、女子ダブルス24、クアード16、クアードダブルス14でした。フィジオブースは、センターコートおよびインコート内の男女ロッカールームに併設し、フィジオスタッフ計34名がシフトを組み、午前午後それぞれ7名のスタッフを配置し二交代制を取って、大会中の緊急対応、フィジオブースおよびアイスバスの管理・運営、練習・試合前・試合後のフィジオブース利用選手の対応を行った。テニスと同様に車いすテニスでも、International Tennis Federation（ITF）から理学療法士スタッフ2名の派遣がされ、コートサイドでのメディカルタイムアウト、フィジオブースの選手対応を行っており、会場フィジオスタッフはITFスタッフのもと、共同して活動した。

期間中のフィジオブース利用件数は合計44件であり、大会前日から大会中盤にかけて利用が多く、試合・練習後にマッサージ、ストレッチの実施する傾向がみられた。利用国は8か国（日本、フランス、韓国、イスラエル、中国、アメリカ、アルゼンチン、南アフリカ）であった。

本大会は酷暑の中での開催であり、日中のWBGTが一定の数値を上回ったため、大会初日からセンターコート以外の屋外コートでの11時

PARALYMPIC

開始の試合は全て順延となった。該当する試合は、16時または17時からの開始する対応がとられ、最終の試合終了時刻が日をまたぎ、午前2時過ぎになることもあった。しかし、大会中の熱中症などの発生に伴う医療対応は少なく、この度の天候に対応した試合順延による対応が影響している可能性が高いと考える。



<現場活動の楽しさ、難しさ>

世界最大のスポーツイベントであり、各国の選手や全国から集合したフィジオスタッフとの交流、情報交換、会場に滞在し活動ができることは貴重な経験となった。また、大会前の事前準備から当日の大会運営についても学ぶことは多かった。しかし、外国選手とは英会話を使用してコミュニケーションを取るため、非常に難しく準備不足であったと感じている。

<これからスポーツ現場活動や国際大会のサポートへの参加を考えている方へ>

スポーツ現場活動では、基本的な知識・技術は必須であるが、関わるスポーツのルール、競技特性の理解をしていると良いと思う。また、多職種スタッフが関わりを通して、互いの役割の理解ができ、自身のコミュニケーション能力を身につけられるため、少しでも興味があれば、臆さず参加し、長く続けて欲しいと思う。また、国際大会のサポート参加活動する上では、英会話は必須であると、個人的に痛感したため、準備されることを勧めたい。



東京2020大会 兵庫県士会員 参加者名簿

※掲載希望者のみ、敬称略 五十音順

石原康成（姫路ハーベスト医療福祉専門学校）
大久保吏司（神戸学院大学）
奥野慎祐（芦屋整形外科スポーツクリニック）
木村公一（段医院）
玄田邦住（松本病院）
河野邦人（松本病院）
高路陽人（株式会社FLAP）
重松ちあき（益子整形外科）
清水真澄（兵庫県立障がい者スポーツ交流館）
高橋洋介（姫路ハーベスト医療福祉専門学校）
高見良知（なかじま整形外科）
瀧口耕平（神戸大学医学部附属病院）
田中敏之（松本病院）
恒藤慎也（大室整形外科脊椎・関節クリニック）
藤原俊輔（段医院）
古川裕之（藤田整形外科・スポーツクリニック）
松本慶吾（神戸百年記念病院）
三星健吾（北播磨総合医療センター）
三宅崇史（大久保病院）
森一晃（あんしん病院）
安村明子（神戸総合医療専門学校）
山口荘司（あんしんクリニック西宮）
吉貝香織（松本病院）



各部だより

保健福祉部

コミュニケーションスキルアップ研修のご報告

8月22日、保健福祉部のコミュニケーションスキルアップ研修がオンラインにて開催されました。講師には昨年に引き続き株式会社ガイヤシステムの松村 俊和先生をお招きし、「共感度を高めるコミュニケーションスキルの磨き方」というテーマで研修をしていただきました。

グループワークでは、語り手・聴き手・観察者に役割を分担してワークしていきました。語り手が話した内容を聴き手がどのように受け取ったのか、観察者が両者を観察していきます。それぞれの役割をすべて経験することで、自分のことが客観的に理解でき、相手に伝え切る難しさや立場によって伝わり方が違ってしまふことなどを学びました。いかに相手に伝えるかということではなく、立場や考えの異なる相手を受け入れて共感することが円滑なコミュニケーションのために必要な要素だと気づける有意義な一日となりました。

退院前カンファレンスや担当者会議などの他職種とのコミュニケーションの場で、一方的に意見を述べていることも多いのではないかと日々の業務の振り返りともなりました。また日々の患者・利用者とのコミュニケーションでも共感を実践していきたいと考えています。

日高 彬(訪問看護ステーションらん)

地域ケア会議推進リーダー導入研修を開催して

9月12日(日)、保健福祉部研修会「地域ケア会議推進リーダー導入研修」を開催しました。当研修は日本理学療法士協会の認証資格「地域ケア会議推進リーダー」の履修要件となっている研修です。昨年に引き続き、オンラインでの開催となりましたが、多くの会員が参加して下さいました。

午前は兵庫県但馬県民局但馬長寿の郷の小森昌彦先生に「地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割」について講義をしていただきました。地域包括ケアシステムが必要となった背景や、その中で医療に求められる役割の変化、理学療法士の専門性について学ぶことができました。

午後はグループワーク「地域ケア会議参加における事例情報の整理」を行いました。モデル事例の情報をICFに分類し、目標達成に必要な解決課題を抽出することで、地域ケア会議で必要な事例像の組み立て方を模擬的に体験しました。

一日の研修を通して、「生活機能のアセスメント、予後予測」といった理学療法士の持つ専門性を活かしながら、地域ケア会議の場に限らず日常業務においても新しい役割を担えるよう変態(トランスフォーメーション)していかなければならないと強く感じることができました。

保健福祉部では今後も地域で活躍するためのスキルアップに役立つ研修を企画したいと考えていますので、ぜひご参加下さい。

長濱 佑亮(適寿リハビリテーション病院)

神戸西支部 × スポーツ活動支援部

研修報告

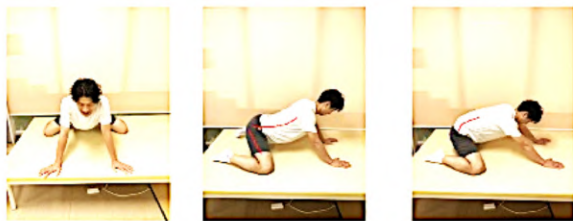
スポーツ活動支援部では、兵庫県理学療法士会の支部化に伴い、各支部にてスポーツ現場に必要な知識と技術の講習会を開催しております。今年度は神戸西支部及び東播磨支部にて頭頸部、肩、体幹、肘・手関節、股関節、膝、足関節のスポーツ理学療法について開催しています。例年は実技を中心に行っていますが、昨年度に続きZOOMを用いた座学研修に変更しております。

9月12日日曜日、神戸西支部との合同研修会において股関節のスポーツ傷害に対する理学療法について、神戸百年記念病院の佐藤 伸明先生に講義をしていただきました。活発な質疑応答となり時間を延長する盛況でした。

■内転筋の強刺激マッサージ（リセット）



■セルフストレッチ（モビリティ）



(感想文)

今回の講習会を受講して、基本的な股関節の解剖や股関節のスポーツ障害の疫学をはじめ、現場での外傷に対する対応などを学びました。私自身、普段のクリニック業務では受傷直後の選手を見ることは少ないため、現場での応急処置の対応などは非常に勉強になりました。今後もこのような講習会を通じて、現場でもしっかりと対応できる理学療法士になりたいと感じました。

中村 風雅(藤田整形外科スポーツクリニック)

Steps
想いをカタチに

リハビリ訪問看護ステーション普
アスリートサポート部
ソーシャルメディア広報部

予防医療部
ワイメンズヘルス部
ICTサポート部

兵庫事務所

〒652-0033
神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

神戸西事務所

〒655-0013
神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754

誰かに「してもらう」から
自分で「する」へ

介護事業分野

- ・ 通所介護
- ・ 訪問看護
- ・ 訪問介護
- ・ 居宅介護支援

調査・研究室

- ・ 社会や業界の情勢・動向調査
- ・ 新規企画・開発
- ・ 社内外へ啓発活動
- ・ セミナー事業
- ・ 大学共同の研究活動

その他事業

- ・ レストラン
- ・ 高齢者向け賃貸マンション
- ・ 就労支援
- ・ 児童発達支援・放課後等デイサービス
- ・ アパレル事業

Switch On SERVICE

株式会社スイッチオンサービス
〒664-0006 兵庫県伊丹市滝池3丁目16-10
TEL: 072-777-3205

求人はこちらまで

各部だより

東播磨支部 × スポーツ活動支援部

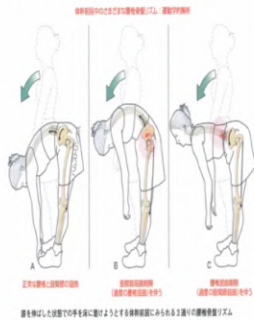
研修報告

スポーツ活動支援部では、兵庫県理学療法士会の支部化に伴い、各支部にてスポーツ現場に必要な知識と技術の講習会を開催しております。今年度は東播磨支部及び神戸西支部にて頭頸部、肩、体幹、肘・手関節、股関節、膝、足関節のスポーツ理学療法について開催しています。例年は実技を中心に行っていますが、今年度もCOVID-19の影響でZOOMを用いた座学研修に変更しております。

9月20日月曜日、東播磨支部との合同研修会において、体幹のスポーツ傷害に対する理学療法について「きしもと整形外科・リハビリテーション科クリニック」の大牧 良平先生に講義をしていただきました。

腰椎運動学

S 腰椎骨盤リズム(屈曲)



- A: 腰椎40° 股関節70°
(正常な動き)
- B: 過度の腰椎屈曲
(ハムストの硬さによる)
- C: 腰椎の可動域制限
(腰椎屈曲不足)

© Donald A. Neumann 著 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版 より



(感想文)

今回スポーツ活動支援部の勉強会に参加させていただき、スポーツと腰部疾患について学びました。

腰痛のあるスポーツ学生のスポーツ復帰のタイミングについてご意見を聞かせて頂き大変参考になりました。

コロナ禍で特に学生は練習時間を削られている中、ウォーミングアップや、ダウンの時間が十分に取れていない状況が考えられ、怪我のリスクが高まります。スポーツ障害の予防、症状の再発防止のために勉強し、できるだけ早く現場に立ち、選手のサポートに役立てるように頑張りたいと思いました。

角屋 卓実(宮島整形外科クリニック)

PT・OT・STのための総合オンラインセミナー
リハノメ 臨床・研究・マネジメント
全てのヒントがここにある

リハノメ
5つのポイント

1 どこでも学べる
オンデマンドでいつでもどこでも学習できる

2 充実のコンテンツ
充実のコンテンツでたっぷり学べる
毎月新規動画を追加予定!

3 豪華講師陣
各分野のスペシャリストがわかりやすく解説

4 定額見放題
定額制だから何度見ても何時間見ても安心

5 配信スケジュール公開
毎月追加される動画の内容と登壇する講師を事前に告知

月々2,181円(税込)~
ご視聴できます!

<https://www.gene-llc.jp/rehanome/>
最新情報、お申込みはこちら **リハノメ** 検索

リハビリテーションを「かたち」にする会社 **gene**

株式会社 gene セミナー事業部 ☎052-325-6611
〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵1-26-12 IKKO新栄ビル6階

人にやさしい人になる

PHYSICAL THERAPY
●理学療法学科●

OCCUPATIONAL THERAPY
●作業療法学科●

SPEECH THERAPY
●言語聴覚学科●

KRC 関西総合リハビリテーション専門学校

E-mail krc@junshin.or.jp
http://www.krc-net.jp/

〒656-2132 兵庫県淡路市志筑新島7番4
TEL.0799-60-3600 FAX.0799-60-3610

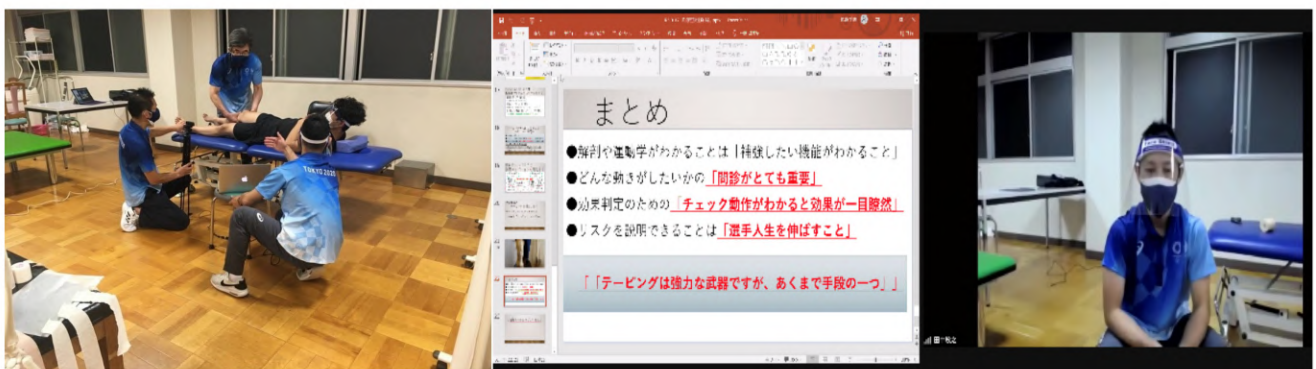
スポーツ活動支援部

柔道班WEB勉強会報告

令和3年9月17日、緊急事態宣言に伴いスポーツ活動支援部の実技を中心とした勉強会の開催が難しくなり、ZOOMを用いた勉強会を開催しました。今回は田辺 誠先生(松本病院院長)、河野 邦人先生(松本病院理学療法士)お招きして2つのテーマ「柔道選手に多い膝関節障害に対するアプローチ」「2021東京オリンピック大会での関わり」でご講演を頂きました。Zoomという環境の中で工夫をして頂き、リアルタイムで実際の評価、テーピングを動画で撮影しながら配信して頂きました。受講された方々からも非常にわかりやすかったとたくさんのお声を頂いています。

今年度は新たな事業として高砂市で開催される籠谷杯争奪柔道大会に参加させて頂く予定となっていました。コロナ感染拡大の影響で中止となりました。

来年度に向けて、多くのスタッフの方々に参加して頂けるように情報共有の場や勉強会を企画していきたいと思っております。是非、ご協力をお願い致します。



(感想文)

はじめに、ご講演していただいた松本病院田辺先生、河野先生貴重なお時間をありがとうございました。新型コロナウイルス感染症流行の影響により、外部活動がしにくくなっている状況でしたので、このような機会が大変新鮮で光栄でした。私は何度か活動支援部の研修に参加させて頂いていますが、活動支援部の研修は実技が多いので実践に直結することが多く、大変勉強になっております。今回は初めてのオンラインでの研修ということで、どのような形になるのかと期待と不安でしたが、ビデオを使って先生方の評価やテーピングの実技を拝見することができ、とても分かりやすく2時間という時間が物足りなく感じる内容でした。また、オリンピックでのなかなか経験できない体験を直接聞くことができ、モチベーション向上につながりました。

高松 恵(入江病院)

**看護リハビリテーション学部
理学療法学科**

女性だから、できるケアがある。
女子大学で、女性のための理学療法を学び、リーダーシップがとれる理学療法士へ。

甲南女子大学
KINAN WOMEN'S UNIVERSITY
〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

理学療法学科公式サイト
理学療法学科公式 Instagram

医療・福祉の仕事を通じて誰かの力になりたい。

その夢を叶える学校です。

神戸医療福祉専門学校中央校
【看護福祉士科】 【鍼灸科】 【精神保健福祉士科】
〒650-0015 神戸市中央区東川崎町2丁目6番5号
(URL) <https://www.kamw.ac.jp>

神戸医療福祉専門学校三田校
【理学療法士科】 【作業療法士科】 【言語聴覚士科】
【社会福祉士科】 【高齢福祉士科4年制】
【福祉保健士科】 【福祉保健科】 【福祉保健科1年制】
〒650-0015 三田市福原町2丁目100
(URL) <https://www.kamw.ac.jp>

姫路医療専門学校
【作業療法士科】 【言語聴覚士科】 【臨床工学技士科】
【看護福祉士科】
〒670-0027 姫路市原町2丁目2番2
(URL) <https://www.kamw.ac.jp>

各部だより

スポーツ活動支援部

サッカー班講習会報告

10月2日土曜日、サッカー班主催による講習会をオンラインにて開催しました。テーマは、「サッカー選手における競技復帰を目指したトレーニング」について、サッカー班の班長である前川 慎太郎先生に講師をしていただきました。

今回の講習会では、前半にサッカー選手において受傷率が高い足関節捻挫の概要について講義が行われました。後半は、サッカー現場にて実際に担当した選手の事例をもとにZoomのブレイクアウトルームセッションを用いて症例検討を行いました。サッカー班の班員が各グループのコーディネーターを務め、ディスカッションを実施しました。オンライン講習会にて、初の試みであるブレイクアウトルームセッションを用いたディスカッションでしたが、参加された方々から経験年数を問わず、活発な意見交換が行われました。講習会の終盤では、参加された方々からの意見を集約し、参加者間でスポーツ現場における選手に対する対応方法などを共有することができ、大変有意義な講習会となりました。

評価すべきポイント (例)

- ・受傷機転の確認
- ・視診 (患部の腫脹や変形、皮下出血など)
- ・触診 (圧痛、骨折・骨端線損傷の有無、足部周辺)
- ・ROM、筋力 (患部以外も含め)
- ・足部のアライメント (距腿関節の適合性など)
- ・不安定性の評価 (閉眼片脚立位保持など)
- ・歩容、ランニング等の動作分析 等

足関節・足部捻挫の病態

靭帯損傷発生率	
前距腓靭帯	73%
踵腓靭帯	2%
後距腓靭帯	2%
内反捻挫	70~80%
外反捻挫	5~15%

大野 良平
林 龍也
三宅 聖史

(感想文)

私は、サッカーの現場経験が少ないですが、臨床では多くのサッカー選手のケアに携わっています。そこで今回は知識の向上を目的に参加させていただきました。

講義ではサッカーという競技そのものや競技の特異的なストレスについて理解を深めることができました。症例検討では、先生方の顔を見ながら行えるオンラインならではの利点も感じました。また、評価項目の列挙のみでなく、先生方の思考過程を伺うことができたのは大きな学びでした。

この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。今回得た知識を発揮できるよう、積極的に現場活動に励みたいと思います。

林 龍也 (松本病院)

今後もスポーツ活動支援部は各支部と協力し、スポーツ現場で活躍したい理学療法士をサポートしていきます。

勉強会やスポーツ現場でのサポートに興味のある方は、QRコードにアクセスしスポーツ活動支援部サポートスタッフへご登録下さい。

メールにてご案内いたします。

「選手は、みなさんのサポートを待っています！」



保健福祉部

「姿勢と動作の理解とその評価」のご案内

保健福祉部では、毎年、標記の実技研修を開催しています。今年度のテーマは『臥位姿勢（背臥位・側臥位）』と『寝返り動作・起き上がり動作・寝ころび動作』です。

理学療法士にとって姿勢と動作の理解は非常に重要な知識です。姿勢や動作に必要な構成要素を改めて確認することで、理学療法を行う上での一助となると考えていますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- ・日 時: 令和3年12月12日(日) 10時～12時(受付 9時30分～)
- ・方 法: オンライン研修 (Zoomを使用します)
- ・対 象: 兵庫県理学療法士会 会員
- ・定 員: 100名(先着順) ※定員に達し次第、申込を終了とさせていただきます。
- ・参加費: 無料
- ・申込み: 下記のURLもしくはQRコードからお申し込みください。(〆切: 12月5日(日))
https://www.kokuchpro.com/event/pt_hfb20211212/
 (研修前に、講義資料をメールでお送りしますので、添付ファイルを受信できるアドレスでご登録ください。)



医療で社会をつなぐ
「医療社会人」を目指す



学校法人 平成医療学園
宝塚医療大学
 TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL and HEALTH CARE

保健医療学部

理学療法学科 ■ 柔道整復学科 ■ 鍼灸学科

☎ 0120-00-1239
 〒666-0162 兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1
 宝塚医療大 検索
<http://www.tumh.ac.jp/>




10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む

総合リハビリテーション学部

理学療法学科
 ● 理学療法士国家試験受験資格
 ● 健康運動実践指導者認定試験受験資格*

作業療法学科
 ● 作業療法士国家試験受験資格

社会リハビリテーション学科
 ● 社会福祉士国家試験受験資格*
 ● 精神保健福祉士国家試験受験資格*

総合リハビリテーション学研究科
 (大学院) 修士課程・博士後期課程

* 指定科目の単位修得者が取得できる資格



神戸学院大学

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
 有瀬キャンパス TEL (078) 974-1551 (代表)



～精鋭の教員陣による人間教育～

リハビリテーション学部

理学療法学科



STANCHES KU 神戸国際大学

リハビリテーション学部/経済学部
 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6
 TEL: 078-845-3111(代表) FAX: 078-845-3200

今年の 近畿学会は ひと味違う



参加費

学生（大学院生は除く）：無料

日本理学療法士協会会員：3,000 円

日本理学療法士協会非会員：10,000 円

理学療法士以外の医療従事者：3,000 円

#交流できるWEB学会

#見どころをSNSで発信中

#ライブ掲示板

#有名講師多数

#コスパ最高

詳しくは

第61回近畿理学療法学会

検索



第61回
近畿理学療法学会

「新しい知見・技術と理学療法の新展開」

会期
2022年

1/16日

Web開催

会長 行動録

- 8月25日 小川参議院議員講演会出席(web)
- 8月26日 常任理事会出席
- ・連盟から依頼のあった政策協定書に対するの対応について
 - ・士会活動目標、重点項目について
 - ・その他
- 8月27日 理事会出席
- ・連盟から依頼のあった政策協定書に対するの対応について
 - ・士会活動目標、重点項目について
 - ・その他
- 衆議院関芳弘議員、石川連盟会長と会談
- ・PTの法的立場について会談した。
 - ・今後の関係づくりについてお話し合いができた。
- 8月30日 風早県議会談時の資料について岩田理事と相談(web)
学会運営審議会について檀辻理事と相談
臨床実習指導者講習会の今後について検討(成田理事に会議依頼)
- 8月31日 大串衆議院議員、風早県議会議員と会談(宝塚市)
- ・介護予防、訪問看護問題の内容、厚生労働省医政局内に「リハビリテーション課」がないこと(医師、看護師、薬剤師はある)、理学療法士の養成、急性期医療における理学療法士の活躍、今後の協力体制、などについて、意見交換を行った。
- 近畿理学療法学会大会準備委員会出席
- ・現状報告、大会スケジュールについての検討、一般演題募集状況の検討など
- 9月9日 令和3年度兵庫県理学療法士連盟・士会 共催研修会挨拶(web)
- ・リハ議連参加議員の挨拶を行うことができた。
- 9月11日 日本理学療法士連盟講習会出席(web)
- ・テーマ「政治、選挙活動における広報の注意点とコツ！」
士会が行うべき政治活動の理解を深めることができた。
- 9月12日 兵庫県理学療法士会新人教育プログラム研修会講演(web)
- ・協会組織と生涯学習システム
- 9月13日 「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」 令和3年度第2回準備委員会会議出席(web)
- ・令和3年度第1回研修会 令和3年9月25日(土)・26日(日)
 - ・令和3年度第2回研修会 予定
 - ・兵庫県立障害児者リハビリテーションセンターとの連携について
3士会障害児者支援協議会での研修会実施は今年度で終了予定。次年度以降は尼リハ主催での開催を検討、県障害福祉課とも協議中。開催ノウハウや講義内容・講師等は協議会は協力していく。今回の研修を尼リハスタッフが見学の上、今後の連携体制を協議していく。

- 9月14日 兵庫県医療職団体会議出席(web)
- ・兵庫県看護協会、介護支援専門員協会、兵庫県栄養士会、兵庫県言語聴覚士会、兵庫県作業療法士会、兵庫県臨床工学技士会、兵庫県臨床検査技師会、兵庫県放射線技師会、兵庫県歯科衛生士会、兵庫県薬剤師会、兵庫県理学療法士会 の集まりである。
- 9月15日 兵庫県3士会合同地域支援推進協議会の県庁訪問(神戸市)
- ・県高齢政策課の訪問、今後の予算について要望
 - ・兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢政策課と会談
課長 田畑様、班長(地域包括ケア推進班)山田様、橋本様に地域で活躍できる理学療法士育成に関する研修事業への補助について相談、①現状の問題点、②それに対する施策を具体的に明示して、また相談してくださいと指示を受けた。
 - ・臨床実習指導者講習会に関する担当者会議出席(web)
 - ・本年度の養成数(現状650名程度、本年度末で1000名程度の養成となる予定)の把握と問題点の検討。
 - ・講習会が都心部に集中していることから、その対策の検討。
- 9月16日 拡大三役会出席
- ・士会重点項目担当役員の検討
 - ・来年度士会組織について(特に学術局の生涯学習担当)
 - ・政治活動について
 - ・感染対策関連、などを検討
- 9月17日 理事会出席
- ・小森、岩田理事と会談、県への資料作りについて検討
- 9月24日 学会運営審議会出席
- ・再来年度学術大会長選出、学会運営審議会議長の交代、県学会を多領域の情報が一度に得られる学会にするための検討を行った。
- 補助金獲得に関する会議出席
- ・岩田理事、小森理事と補助金獲得に関する勉強会に出席した。神戸市医療センターで実施されている、高度急性期から回復期、在宅に至る理学療法士のかかわり、それによる医療費削減効果などについて岩田理事から説明を受けた。また、小森理事から公的な補助金についての説明を受けた。今後の方針について検討した。
- 9月27日 神戸西管理者ネットワーク会議出席、挨拶。士会で検討している目標について説明した。
- 9月28日 香川神戸市議員と会談
- ・香川議員に現状の理学療法士の問題点について説明し、理解を求めた。香川議員からは神戸市関連の多くの情報をいただいた。今後も活動についても会談した。
- 石川連盟会長伊藤理事と会談。
- ・今後の政治活動について会談した。リハ議連議員との関係について検討した。
- 近畿理学療法学会大会準備委員会出席。
- ・大会スケジュールの詰めの作業。一般演題発表の方法など。
- 9月30日 政経懇談会出席
- ・久元神戸市長、赤羽衆議院議員、中野衆議院議員の政策についての講演会。伊藤議員、武田秘書と会談。
- 10月4日 神戸市議自民党予算会議資料作成。10月5日会議の資料作成を行った

10月5日 神戸市議自民党予算会議出席

市議団と会議の中で、現在士会が受けている高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関する理学療法士の活用に関する予算の継続と、さらに、かよいの場への活用も要望した。さらに、障害構造の急速な変化への対応と医療・介護費削減に資する理学療法士の育成が必要であること、それを達成するためには、

1. 卒前・卒後の理学療法士の生涯教育において、より多くの理学療法士が急性期病での経験を経て、訪問・通所での理学療法を行う上で必要な基本的な知識・技術を経験する場が必要なこと。
2. 障害構造の急速な変化への対応と訪問・通所での理学療法を適切に実施でき、医療・介護費削減に資する理学療法士の育成する必要があること。

を説明し、そのために必要な理学療法士の適切な卒後教育実施へのご協力をお願いした。

10月6日 養成校連絡協議会幹事校会議出席

臨床実習指導者講習会の現状と予定(県内で概ね700名程度の養成、本年度で約1000名程度の養成数になる予定)の報告があった。現状を考えるとさらに講習会の開催を急ぐ必要があるという意見が多い。また、web開催については士会がその方法も含め指針となるweb講習会を行う必要があること、講習会開催がどうしても都心部が中心となるため、士会が都心部以外の会員にも参加しやすい講習会を開催する必要があることが話し合われ、今後検討することとなった。

10月9日 日本理学療法士協会組織運営協議会出席。“議事内容は以下の通りであった。

協議事項

1. 2022 年度重点事業について
2. 2023 年度以降の新組織体制について

報告事項

3. 次期会員管理システムの進捗状況について
4. 全国職能関連担当者会議の開催について
5. 都道府県理学療法士会との意見交換会実施について
6. 都道府県理学療法士会広報関連担当者との意見交換会について”

10月11日 山本かなえ参議員と会談

・医療・福祉行政、および私たち理学療法士の現状についてお詳しい議員さんである。今後も与党議員として協力体制をとっていただけるようにお話しした。士会の推薦、今後の協力体制についてご相談した。

石川連盟会長、伊藤理事と会談。山本議員との協力体制について話し合った。

10月13日 日本理学療法士協会私的勉強会出席。ブロックごとに主に斎藤協会長と士会長の勉強会である。多方面の内容について話し合われる。



創立48年

病院を母体とする医療の総合教育校

理学療法士科 作業療法士科
診療放射線科 臨床工学科
聴能訓練士科 言語聴覚士科
臨床工学専攻科

1979 医療法人社団 慈恵会
Kobecce 神戸総合医療専門学校

〒654-0142 神戸市東灘区東灘7丁目1番11
TEL.078-795-8000 (内線) TEL.078-795-8100 (広報課)
<https://www.kobecce.ac.jp>



大学院 医療科学研究科

職業実践力育成プログラム
Brush up Program for professional

PT・OT 臨床力
ステップアッププログラム

リハビリテーション科学
課題研究コース

本プログラムは、職業に必要な能力向上の機会拡大を目的として、
社会人企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして
て本科学士大学院が認定し、開講しています。

西日本を代表する医療総合大学へ
Leading Health Science Innovation

学校法人 兵庫医科大学
兵庫医療大学

〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6
■大学に関するお問い合わせ ☎078-304-3034

進学部 看護学部 リハビリテーション学部
薬学研究所 看護学研究科 医療科学研究科





中林病院リハビリテーション科
通所リハビリテーション
郷 慎治 氏

略歴

- 1999年 土佐リハビリテーションカレッジ卒業
- 1999年～2001年 新淡路病院
- 2001年～現在 中林病院

趣味

野球（観戦）
筋トレ、釣り、日曜大工

モットー

釘は抜いても
手は抜かない

養成校を卒業し、生まれ育った淡路島で就職し20年以上が経ちました。当院は一般と地域包括ケア、療養病棟を有し通所リハビリテーションや、人工透析棟を併設しております。現在は臨床に従事しながらも、リハビリテーション科と通所リハビリテーションの管理を兼任しています。地元南あわじ市では、他市に遅れをとりながらも数年前より、ようやく介護認定審査会や地域ケア個別会議に参加させていただくようになりました。

小学生の時から野球をしており、45歳となった現在でも選手兼監督兼トレーナー？として社会人でチームを率っています（県大会常連）。他にも幼児や小学生を対象に近隣の理学療法士と運動教室を開催したり、高校野球の大会に医療スタッフとして関わっています。広報誌で紹介されている他の理学療法士のように、輝かしい功績はありませんが、淡路支部では副支部長という立場を拝命し、主に職能班や防災を担当しています。またスポーツ活動支援班として島内の理学療法士と共に、各スポーツ現場で活動しています。淡路支部では来る第33回の県学術大会の準備を進めているところです。皆様のご来島を心よりお待ちしております。

今回は同い年であり、淡路圏域リハビリテーション支援センターで活躍されている、順心淡路病院の廣岡 幸峰先生をご紹介します。

表紙写真

東京2020大会。理学療法士がこの国際大会に関わることで得られる経験や知識を、「将来的な理学療法士の活躍につなげる」、さらには「日本の理学療法士の発展につながるレガシー」とするために、準備が進められてきました。この度、兵庫県士会員のオリンピック・パラリンピック大会での活動報告を、特集にて掲載させて頂いております。

県士会だより 第192号

発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者／間 瀬 教 史

編集者／筒 井 章 悟

ホームページ

<http://hyogo-pt.or.jp/>



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地

〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階

TEL 078-367-7311